

地域工場見学班

【メンバー】

海事科学部 4 年（代表）、経済学部 3 年、理学部惑星学科 1 年、経営学部 1 年、国際人間科学部環境共生学科 1 年

【指導教員】

安川幸男

【活動内容】

概要：

活動目的として、机上では学べない現場の肌感を学ぶために様々な地域や工場に直接訪問・見学をし、今現在、価値を生み出している現場を学ぶこと、今後その価値がどのように変わるのかを考えること、新しい価値を生み出す起点をつくることを目標としました。そして活動として訪れた現場は 7 カ所で、成果物としては 078K0BE 出店と出店に伴う VR 動画作成があげられる。

活動内容：

2022 年度の活動としては、勝野製菓さんへの訪問、伊東電機さんへの訪問、丹後ちりめん事業者への訪問、Ai Heart Japan さんへの訪問、078K0BE の出店である。以下はそれぞれの訪問と訪問して得られたことを記す。

・勝野製菓さんへの訪問

去年の 6 月に活動を開始し、アイスコーンやモナカを作る勝野製菓さんに訪問した。この訪問では岡山大学の起業部と一緒に訪問を行った。訪問する前に岡山大学の学生と勉強会を開き、訪問した。訪問して聞いた声として、「ものづくりの現場に興味を持ってくれて、訪問・見学してくれるだけでうれしい」や「訪問してくれると、新鮮な意見含め様々な視点の話ができ、新鮮な時間が過ごせた」とある。逆に学生側としては、「より深い話を、実際に働いている人に話を聞け、どのような視点を大切にしているのかわかった」、「現地に赴き自分の目で見ないとわからない事(ネットで調べていきづらい事)がたくさんあった」と声をいただいた。また訪問して、「高校就活」の現状を初めて知り、自分たちがあまり接することがなかった問題が現場にあることをした。

・伊東電機さんへの訪問

8 月に物流を担う、パワーモーターを製造している伊東電機さんに訪問した。この訪問では前回同様、岡山大学の起業部と一緒に訪問した。伊東電機さんは地域貢献や人材育成にも熱く、生野高原でイノベーション村という施設を作り、人材育成に力を入れていた。前回の訪問では、新しい気づきや感じている課題などを知ることができた。ただ、企業側の視点では、学生に対してどんなことを求めているのかを知りたいと考え、その意見交換を行った。地域創成をテーマに議論する場を作り、自分たちの気づきや学びをレポートにしたが、アイデア提案にとどまらず、プロトタイプの実装まで行う必要があるのではないかと考えた。

・丹後ちりめん事業者への訪問と 078K0BE の出店

丹後ちりめん事業者への訪問は、二ホン継業バンクさんと京丹後市が主催するインターンシップによって実現した。伝統産業の先進事例を学び、実際に丹後ちりめん事業者で職業体験をし、課題解決案の検討しその提案を行った。実際に体験をすることで、自分の学んだことを現場でどのように生かせるかという視点で様々なアイデアが浮かんだ。ただ、期間の都合上、浮かんだアイデアで実際にプロトタイプを作成し実装することはできなかった。

浮かんだアイデアを実際にも実現させる場として、11 月の下旬で行われた 078K0BE である。実際に行ったアイデアとして、VR 動画を使い職人者体験ができるのか、また VR 動画を通じて伝統産業により深い興味を持つかを調べた。作成した VR 動画としては、播州刃物の製造過程で、078K0BE の訪問者に VR ゴーグルを装着してもらい体験してもらい、アンケート回答をお願いした。展示では、播州刃物であるハサミの鍛造の過程や丹後ちりめんの精錬の過程でできるものを置いた。

アンケートに回答いただいた方は 23 件で、今回の展示で親近感が湧いたのが 70% の人、親近感が湧いた人で VR 動画を魅力的に感じたという答え人は 41.2% であった。実物サンプルを魅力的に感じたという答え人は 52.9% で、VR 動画で魅力的に感じるのももちろんのことながら、実物サンプルで魅力を感じたと答えた人はおり、製造の過程でどのように物質が変化していくのかを見せるだけで、魅力を伝えやすいと考える。

どのようにものができて、自分たちの手元に来ているのかを知ることは、それだけで大きな価値を示すことが考えられる。

・Ai Heart Japan さんへの訪問

Ai Heart Japan さんへの訪問は、1 月の下旬ごろに行った。Ai Heart Japan さんは、空気に溶けている水蒸気

から水を生成する機械を作っている企業で、電気さえあれば水が生成される（湿度と気温により生成する量が変わる）機械を作っている。この訪問では、Ai Heart Japan さんがどういった事業を行っているのか、どのように事業を広めていくのかを学んだ。

得られた結果とまとめ：

2022 年度の活動では、モノづくりをテーマに様々な事業者にお会いした。その中で、高校生就活の問題や、里山づくり、後継者不足の問題など、様々なテーマを知ることができた。また、078KOBE によりモノづくりにおいて、どのようにものができてくるのかが知ることで魅力を感じると答える人が多いこともわかった。そして、今回の活動でから、継続して地域のものづくりや里山づくりをテーマとした、具体的な活動を行いたいと考えている。

各人の感想：

経済学部 3 年

チーム作りに関する学びを得た年度となった。今年度の活動は 2 人のメンバーで始めたため、チームをまとめる立場になった自分の発言・行動に重要性や責任を感じていた。その意識から、今後の活動内容の提案や意見の共有を行ったり、スケジュールやタスクを整理し共有したりと、主体的に行動するようになった。また、そうした積極性をメンバーの 1 人 1 人が持つようになれば、(特に少人数チームにおいては)チーム運営が行いやすくなることに気づいた。昨年度の自分は最年少だからと何かと遠慮しがちであったが、今後どこかの組織に属す際は、遠慮による追従ではなく自立したうえでフォロワーシップを持とうと反省する。

またチームについて、一般的な仕事や団体と違い、活動の方向性や目標がぼんやりとしており、それが活動のスピードや成果物の数にも影響していると感じた。これは、案が出てきたとき・案を仮決めしたときに①ゴールを設定し②具体的なアクションのフローをその場で作り③実行する、の 3 点が行えていないためと考えられ、課題である。今後、少なくともひと月の間は、ミーティングの終わるタイミングなどで行えていたか評価し、本推測が違えば修正する。

経営学部 1 年

大学入学当初から私は、今後の進路について全く考えていない自分に対してかなり危機感を抱いており、早いうちに将来の選択肢を見つけようと企図した。日本各地を訪問するという活動内容は、いわゆる「自分探し」に貢献するのではないかと思い、私はこのグループに参加した。そして 1 年弱のあいだ活動に参加し、結果的に離脱したのは、興味関心の方向のズレが許容範囲を超えてしまったからである。しかし、かえって自分の興味関心が絞られたし、このグループの運営、考えの発展のさせかたは、今後の自分に生かせそうなものばかりだったので、結局のところ、有意義な時間を過ごせたと思った。

理学部惑星学科 1 年

自分の知識について言えばとても価値のある一年間の活動となった。大学 1 年次を自堕落に過ごした反省から、2 年生で何か主体的に動きたいと思い V. School に加入したが、その当初の目標は達成できたように思う。また、この活動を通じて全体的に、自分の疑問や興味についてたくさん対話し議論させてもらったことが、自分の糧になったように感じる。

この活動では、たくさんのお縁に恵まれて大学の外にいる素晴らしい方々に出会い、影響を受けた。また、頭でっかちになっていた自分にとって、経験からしか得ることのできない学びを知ったことは大きな刺激だった。損得より感情で人は動くし、そのほうがエネルギーを持てる、それは机上ではわからないことだった。自分の利益を二の次にして社会貢献の文脈に全力を注げる人々が成功しているのを目の当たりにし、自分も将来こんな素晴らしい人格者になりたいものだと感じた。

このようにこの活動を通じてたくさんのもを受け取って成長することができた。今度は自分が恩返しできればと思う。

参考：

- 6 月 津山産業塾、イノベアクセル、勝野製菓訪問
- 7 月 活動方針について考える⇒現場ワークショップ?などの案
- 8 月 伊東電機訪問⇒議論会
- 9 月 京丹後で織物体験
- 10 月 播州刃物訪問
- 11 月 織物、刃物に関して 078kobe で出展

12月 神戸新聞の配信手伝い

1月 京丹後訪問、AiHeartJapan 訪問

⇒訪問先：7 訪問回数：10 成果物：3(織物・刃物 VR 動画、イベント出展)

その他、随時ミーティングや勉強会をリアル or オンラインで行った